

地域のニーズにこたえて

⑥ 長万部町

長万部町 地域おこし協力隊
亀田 純孝

【1】ソーシャルクリニック活用の経緯

筆者は2020年4月より長万部町地域おこし協力隊として、鳥取大学卒業後に町へ移住してきた。地域おこし協力隊（以下「協力隊」）とは、制度創設者の総務省によると「都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、（中略）『地域協力活動』を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組」である。筆者の場合は町への定住・定着を目標として、図書館の業務補助と文化イベントの企画・運営に携わることがミッションである。ところが、着任当時の筆者には図書館に関わる知識や技能が乏しく、コロナ禍で道南地域の状況を掴むのも極めて難しい状況であった。そこで、長万部町の協力隊担当課である長万部町役場新幹線推進課より、ソーシャルクリニックを活用して専門家から図書館の専門知識等をご提供頂いてはどうか、と提案され、「定期受診（北海道教育大学函館校との定期的な情報交換の場の設定）」に至った。

【2】ソーシャルクリニックの活用内容

「定期受診」では、北海道教育大学函館校の齋藤征人先生と小林真二先生より道南の地域活動の事例を伺うほか、長万部町をフィールドとした「地域プロジェクト」を提案していただくなど、協力隊事業についてアドバイスをいただいた。

また、国語教育を担当されており、附属函館図書館長でもある内藤 一志先生を紹介していただき、図書館についての情報収集の方法として、いくつかの専門誌を紹介していただいた。その中でも特に、日本図書館協会発行『図書館雑誌』の購読は図書館職員向けの研修の情報収集に役立っている。

【3】ソーシャルクリニック「定期受診」の感想

自分の知りたい分野についての事例、それも道内や道南など身近な例を定期的に知ることができる機会と、事業についての専門的な知見からのアドバイスはありがたく、対応していただいた先生方にはとても感謝している。

残念ながら「地域プロジェクト」の活用には至れなかったが、今後も北海道教育大学函館校との関わりを大切にしていきたい。